

I 目指す学校

【教育目標】「自由と責任を重んじ、自立の精神に充ちた個性豊かな人間を育成する」

【スクール・ミッション】

「自由と責任を重んじ、自立の精神に充ちた個性豊かな人間の育成」を教育目標とし、国際理解教育や特色ある教育活動を通じて、地球的視野で物事を考え行動できる、知・徳・体のバランスのとれた良識あるリーダーを育成します。

【スクール・ポリシー】

(1) グラデュエーション・ポリシー

- 各教科・科目及び横断的な学習から、体系的で汎用性の高い知識・技能を習得する
- 自主的な学習態度を養い、思考力・判断力・表現力を育成する
- 自己肯定感を養い、人間性豊かに生きる能力・態度を育成する

(2) カリキュラム・ポリシー

- 教育課程の編成：文系・理系の境界のない幅広い教養と骨太な学力を身に付けるための教育課程を編成し、信州北園プロジェクトを継承した探究活動を中心に据えた学習活動を展開する。
- キャリア教育の充実：進学指導推進校として希望進路の実現を支援し、変化する社会に対応できる生徒を育てる。
- 言語活動の充実：様々な教育活動において、思考力・判断力・表現力とともに、コミュニケーション能力を育てる。
- 理数教育の推進：最先端の科学に触れる機会を設けるとともに、専門研究機関や大学と連携し生徒の知的探究心や論理的思考力を育むため、探究活動を重視した取組を実施する。
- 国際理解教育の推進：オーストラリアの語学研修や第二外国語教育を充実させ、「海外学校間交流推進校」として相互交流を通じて、多様な文化を尊重できる態度を育み、グローバル人材の育成に努める。
- 行事、部活動の活性化：体育的行事や特別活動、部活動等を通して体力の向上に努め、人間性豊かな生徒を育てる。

(3) アドミッション・ポリシー

- 確かな学力：中学校での学習活動に意欲的・自主的に取り組んで成果を上げ、その旺盛な知識欲・探究心によって、今後の学習活動でも成果が見込める生徒。
- リーダーシップ：将来に対して明確な目標をもち、確かな学力を礎として、知・徳・体のバランスの取れたリーダーとなる気概をもつ生徒。
- 積極性：学校行事、部活動、生徒会活動等の課外活動に積極的に参加した実績があり、将来も諸活動に積極的に参加する意志のある生徒。

II 中期的目標と方策

1 学習活動

(1) 進学指導推進校として、教育内容の質の向上と内容の充実を図る。

- ① 国公立大学進学を見据えた全科目履修型の教育課程を編成し、適正に実施する。
- ② 学力調査等のデータ分析に基づき、生徒の学力の実態を把握し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性」を育むなど、生徒の学力向上に取り組む。
- ③ 国語をはじめ各教科等において言語活動の充実を重視した授業を実践し、思考力・判断力・表現力を育成する。また、学習活動全体で図書館を活用した読書活動を推進する。
- ④ 生徒一人一人の「確かな学力の定着と伸長」を目指して、数学及び英語において習熟度別授業を実施する。
- ⑤ 対面での授業に加え、オンライン学習や一人1台端末を有効に活用することで、基礎・基本の定着を図

るとともに、発展・応用的な学習に触れる。

⑥ 組織的に指導方法・指導内容、評価方法の改善に取り組む。

(2) 社会的自立を促し、社会参画する力を育成する。

① 公民科の各科目や総合的な探究の時間等、学校の教育活動全体を通して、国や社会の様々な問題を自分の問題として捉え、考え、判断することができるよう主権者教育を推進し、自立的社会人としての素養を養う。

② 東京 2020 大会以降のレガシーの構築を踏まえ、ボランティアマインドの醸成や障害者理解教育などを展開する。

(3) 「カリキュラムマネジメント」を促進する。

① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点から教育活動の改善を行う。

② 生徒の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る PDCA サイクルを確立する。

③ 新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実を図る。

④ 各教科等で育む資質・能力を明らかにし、新学習指導要領に向け策定した教育課程への移行を推進する。

2 進路指導

(1) 3 年間を見通した系統的・組織的な進路指導を推進する。

① 進学指導推進校として、進学対策に組織的、計画的に取り組み、生徒一人一人の適性や能力を伸ばすとともに、生徒の第一希望の実現を図っていく。

② 3 年間の進路指導計画を作成し、キャリアガイダンスや進路講演会、外部模試等を計画的に実施する。

③ ICT を活用した組織的な進路指導体制を確立し、各学年に共通した進路情報を提供してきめ細かな進路指導を行う。

④ 1 学年の自然体験・環境プログラムなど「信州北園プロジェクト」と連携した行事の他、職業人へのインタビューワーク、分野別ガイダンス、キャンパス訪問など実践的なキャリア教育を充実させる。

3 生活指導

(1) 規範意識を醸成し、高いモラルをもった社会性を育成する。

① 生活指導指針・「身に付けさせる規律・規範」に関する全体計画を作成するとともに、生徒の身だしなみ等への指導についての検討を継続し、ルール・マナーの遵守、身なりや所作、適切なコミュニケーション、授業規律などを明示するとともに、規範意識を醸成し、高いモラルを持った社会性を育成する。

② 学校安全計画を作成し、交通安全教室、薬物乱用防止教室、セーフティ教室などを計画的に実施するとともに、SNS 北園ルールに基づく指導を行うなど、安全教育を推進し、危険を予測し回避する能力と他者や社会の安全に貢献できる資質や能力を育成する。

③ 「学校いじめ対策委員会」の役割と具体的な取組を明確にするとともに、全ての教職員が、いじめの総合対策・学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめ防止（いじめの未然防止、早期発見・早期対応）に学校全体で組織的に取り組む。

④ 「自助」「共助」の精神に基づき、適切に行動できる人材を育成するとともに、生徒の防災意識の向上を図るため、地域と連携した実践的な防災教育を充実させる。

4 特別活動・部活動

(1) 特別活動・部活動を通して、個性を伸ばし豊かな人間性を育む。

① 学校行事や生徒会活動、ホームルーム活動、部活動等を通して、主体性、創造性、協調性を伸ばし、集団の一員としてよりよい社会を築こうとする自主的、実践的な態度を育成する。

② 地域や近隣小中学校、関係機関との連携を密にし、地域行事、部活動体験、学習支援等への積極的な参加を促す。

③ 東京 2020 大会以降のレガシーの構築を見据え、オーストラリア及びドイツの姉妹校との交流を充実させる。

5 美化・健康づくり

(1) 心身の健康の保持増進と校内美化の徹底を図る。

- ① 生徒の心のケアなど教育相談機能の充実を図るとともに、共生社会の中で、多様性を尊重した教育を推進する。
- ② PTA や関係機関と連携し、生徒の不安や悩みを把握し、必要な対応を行うことができる支援体制を構築するなどにより、自殺防止の徹底を図る。また、保健体育等の時間を使い、教材を活用した SOS の出し方に関する教育を実施する。
- ③ 体育実技や部活動をはじめ、様々な体育的活動を通じて、運動意欲や体力の向上を図るための取組を展開する。また、「学校 2020 レガシー」に基づき、体力向上の取組を実践する。
- ④ 教員系と行政系の職員が連携して、教育環境の整備や校内美化、感染防止対策に努める。

6 募集・広報活動

(1) 都民に信頼される開かれた学校づくりを推進する。

- ① ホームページを充実させ、積極的に学校情報を発信する。
- ② 募集・広報活動の工夫・改善により、応募倍率の向上に繋げる。

7 学校運営・組織体制

(1) 生徒・保護者の期待に十分応えるべく、組織体制の充実を図る。

- ① 学校運営連絡協議会を各学期 1 回開催し、学校運営に関する意見交換、教育活動の観察、学校評価を通じて学校改革に取り組む。
- ② 企画調整会議を中心に、学校全体の業務に関する企画立案及び連絡調整を行う。また、分掌組織との双方向の速やかな情報伝達を徹底する。
- ③ 分掌部会等において、迅速・確実に情報を共有するとともに、担当業務の課題を把握し、検討を行う。
- ④ 教科主任会を通して、教科間の連携を図る。また、各教科会で授業改善やシラバス作成、学習評価などに取り組み、組織的な指導体制を確立する。

(2) 法令を遵守し、服務事故のない学校づくりに全教職員で取り組む。

- ① サービス事故防止研修の実施や、日常的な点検を通して、個人情報等の紛失や体罰・不適切な指導などのサービス事故を未然に防止する。
- ③ 「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、ライフ・ワーク・バランスを推進する。
 - ① 効率性、生産性の向上等を目指し、効率的な事業運営を行う。
 - ② 年休取得・定時退庁の促進、職場環境の整備及びコンプライアンスを徹底した職場管理等、良好な職場風土を醸成する。

8 特色ある教育活動

(1) 相互交流を通じて、多様な文化を尊重できる態度や資質を育み、グローバル人材を育成する。

- ① 学校設定科目として、第二外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語）を設置する。
- ② 海外語学研修の実施、留学生や訪問団の受け入れ、姉妹校交流、PASCH（ドイツ外務省連携事業）の活動など、国際交流を充実させる。

(2) 「信州北園プロジェクト」を通して、確かな学力とタフな人間力を育成する。

- ① 森林探究実習（長野県、伊那市、NPO 法人「伊那谷森と人を結ぶ協議会」との連携事業）を活用し、体系的・計画的な探究活動を推進する。
- ② 体験活動や演習を取り入れた教科「人間と社会」（総合的な探究の時間及び森林探究実習等）を通して、キャリア教育を推進するとともに、道徳教育を充実させる。

Ⅲ 今年度の取組目標と方策

1 教育活動の目標と方策

(1) 学習指導

ア 生徒の学習意欲を向上させるため、質の高い授業を創造する。

- ① 知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」を実践する。
- ② 相互授業参観や進学指導研究協議会による指名制による授業研究、外部の研究会への参加などによっ

て、授業力向上に努める。また、その成果を各教科で共有する。

③ 生徒による授業評価、校内外の研修機会を積極的に活用して、授業力向上に努める。

④ 一学年の段階から大学入試問題などを示して、目標レベルを明確にした学習指導を行う。

イ 教科マネジメントを確立し、組織的に生徒の学力向上に取り組む。

① 教科会を定期開催し、科目内の指導内容の統一、進度調整を図るとともに、生徒の学力向上のための方策を検討するなど、教科マネジメントの充実を図る。

② 3年間を見通した指導計画を作成し、それに基づく教科指導を行う。週ごとの指導計画を作成し、生徒・保護者に周知するとともに、ホームページにも公開し、授業を計画的に実施する。

③ 授業の取組や定期考査・外部模試等の分析、生徒による授業評価を活用し、授業改善を推進する。

④ 生徒の自主学習時間を伸ばすため、予習・復習の必要な授業への改善を進め、課題や宿題の在り方を検討するなど、校内で組織的・効果的な指導を行う。

⑤ 記述力・論述力を測る定期考査を実施するとともに、定期考査問題の共通化を推進する。

ウ 東京都の教育施策を見据えて、新たな教育課題に対応する。

① オンライン英会話を活用し、「聞く」「話す」等4技能の育成に重点を置いたきめ細かい指導を実施し、CAN DOリストを活用した指導と評価に取り組むとともに、外部試験による生徒の4技能別英語力を把握して、生徒の「使える英語力」を向上させる。

② 「理数研究校」として、理数に興味・関心をもつ生徒を増やすとともに、その資質・能力を伸ばすための取組を推進し、各種コンテストへの参加を促す。

エ デジタル技術を活用した教育を推進する。

① 一人1台端末を活用し、端末を用いた授業やコミュニケーションツールとしての活用を展開する。

② ICT機器を活用し、デジタルコンテンツの作成等、新たな指導方法や教材の開発により、生徒の興味・関心を刺激する授業を行う。

③ 授業のライブ配信や動画配信等、オンラインを活用した授業を準備する。

(2) 進路指導

ア 生徒の第一志望の実現を図る進学指導を行う。

① 生徒の成績推移等の情報を共有し、担任・教科担当・部活動顧問等があらゆる場面で生徒を励ましなが
ら、第一志望を貫くように学校全体で支援する。

② 「進路ニュース」を定期的に発行し、情報提供に努める。

③ 進路指導部と担任・教科担当の連携を深め、組織的な進路指導の充実を図る。

④ 生徒面談や三者面談等を通じて、一人一人の適性・能力に応じた指導を行う。

⑤ 1・2年夏季特別講習(希望者)により、高い学力を育てる。

⑥ 「信州北園プロジェクト」を通して、実践的なキャリア教育を推進する。

⑦ 保護者会等の機会や、オンラインを活用することで、進路に係わる情報を積極的に提供する。

イ 1学年より3年間を見通した系統的、組織的な進路指導をきめ細かに行う。

① 3年間を見通した年間の進路指導計画に基づき、体系的なキャリア教育を実施する。

② 外部模試等終了ごとに模試分析会を実施し、学校全体で模試等の結果について教科会で検討し、教科指導・個別指導へ反映させる。

③ 大学の教育内容や特色を理解させるとともに、自己の将来を見据えて仕事の魅力や意義を考えさせるため、進路講演会や進路懇談会、進路説明会、模擬授業、大学見学会を実施する。

ウ 学力向上のため、長期休業日中の講習の参加生徒の増加を目指す。

① 夏季休業日に講習期間を設置し、夏季休業日全体で講習を実施する。夏期講習は、各教科で講習内容を検討し、全員体制で取り組む。

② 早い時期に長期休業日中の講習の講座数・日程を生徒に示すことで、早期に生徒に学習計画を立てさせるとともに、部活動、学校行事より講習を優先するよう生徒を指導して、講習の参加生徒の増加を目指す。

③ 長期休業中以外でも、多くの教科・科目で補習・講習を行い、生徒の進路実現に資する。

④ 自習室や校内予備校を有効活用し、生徒が学校で学習できる環境を整備する。

(3) 生活指導

ア 規律ある学校生活の中で自立の精神を培うよう、全教職員が一致して指導を行う。

- ① 年間3回以上の生徒面談を実施し、生徒理解を深める。
- ② 基本的生活習慣を確立させるとともに、組織的に遅刻指導に取り組む。
- ③ ノーチャイムによる授業の始業・終業を徹底し、けじめある授業規律を徹底する。
- ④ 集会、HRを活用し、自己規律とともに公共心や規範意識を育てる生活指導を推進する。
- ⑤ 公共ルールの遵守やSNSルールに基づくインターネット・携帯電話等の適正な利用についての指導を計画的に実施する。

イ 生徒が安心して学校生活に取り組めるよう、教育環境を整える。

- ① いじめ防止基本方針に則り、いじめは絶対許さないという毅然とした態度で臨み、機動的かつ組織的な対応を実施する。いじめのアンケートを年3回実施し、早期発見に努める。
- ② 防災教育推進委員会を設置し、地域等と連携した防災訓練とともに、年4回の避難訓練を実施する。避難訓練や避難所設営訓練、防災講話の実施を通して、災害時の心構えや対応方法を身に付けさせ、被災者支援を主体的に行える資質・能力を養う。
- ③ 不審者の侵入や盗難防止のため、教職員の意識の徹底及び生徒への注意喚起と迅速な対応を行う。

(4) 特別活動・部活動

ア 文武両道を推進し、学校行事や部活動を通して、生徒の帰属意識を高め、学校生活を充実させる。

- ① 終祭、体育祭、修学旅行等の学校行事を通して、成就感や達成感を高める。
- ② 生徒の実行委員会を中心に、主体的に学校行事に取り組ませる指導を行う。
- ③ 生徒会活動・委員会活動を充実させ、自主的・自立的な活動を支援する。
- ④ 地域、関係機関との連携を密にし、地域行事、ボランティア活動、奉仕活動へ参加させる。

イ 部活動を通じて、ルールを順守する態度を身に付けさせると共に、目標に向かって協力し、努力する態度を育成させる。

- ① 部活動への加入を奨励し、部活動加入率を高め、部活動を活性化させる。
- ② 本校の部活動方針に基づいて、部活動ごとに年間目標、指導方針、指導内容、指導方法を策定させ、部活動計画を把握する。また、部活動毎に平日、週休日において活動しない日を確実に設け、メリハリのある活動と家庭学習時間の確保を図る。
- ③ 部顧問や外部指導員に対して体罰根絶に向けた研修会を実施するとともに、いじめや暴力のない活動を促していく。
- ④ 日々の活動状況や成果を学校内外に積極的に広報し、活動の動機づけとするため、部活動のページの更新を推進する。

(5) 美化・健康づくり

ア 生徒の心身の健康に配慮した教育活動を行う。

- ① 学校保健計画を策定するとともに、定期健康診断による生徒の健康状況把握や緊急時の対応方法の徹底を図る。
- ② セーフティ教室や保健の授業、保健指導等を通して、健康及び安全について、生徒自らが適切に管理できる能力を育成する。
- ③ 授業や保健指導の中で、食生活の基本や心身の健康管理についての生徒の意識を高め、体力・運動能力の向上を図る。
- ④ スクールカウンセラーや特別支援教育心理士を活用し、1年生全員面接の実施、心身の健康に不安を持つ生徒・保護者に対する相談支援体制を整える。生徒理解や特別支援教育についての研修を複数回行う。
- ⑤ 様々な機会をとらえて生命尊重についての指導を行うとともに、すべての生徒に対し、年間1回以上、生命尊重や不安な際のサインの出し方についての授業を行う。
- ⑥ 全校的な感染症予防対策の徹底及び意識の啓発を随時行う。
- ⑦ 体力テストで自己の課題を把握させ、一人一人が自分の目標をもって取り組む指導を行う。

イ 快適な学習環境維持のため、校内美化や保健衛生に努める。

- ① 定期的な大掃除などにより清掃を徹底し、全校あげて校内美化に取り組む。
- ② アレルギーをもつ生徒情報を共有するとともに、エピペンの使用方法に関する研修を実施する。
- ③ 校内施設・設備の維持管理に努め、生徒の安全安心な活動を支援する。

(6) 募集・広報活動

ア 広報活動を工夫し、組織的かつ戦略的に進めることで本校を第一志望とする生徒を獲得する。

- ① ホームページを積極的に活用し、更新を頻繁に行うことで適時適切な情報発信に努める。学校案内、ポスターを刷新し、効果的に学校の特色や魅力を伝えていく。
- ② 学校説明会や学校見学会、公開授業などの機会に、生徒会等と協力し、生徒の視点からの広報も行う。
- ③ 部活動の見学・体験入部、中学校との合同練習などに積極的に実施する。
- ④ 地域との交流や近隣小中学校との連携を工夫する。
- ⑤ 全教職員が広報活動に参画し、戦略的に広報活動を展開する。

(7) 特色ある教育活動

ア 海外学校間交流推進校、国際交流リーディング校としての活動を充実させる。「学校 2020 レガシー」として、相互交流を中心とした豊かな国際感覚を育成し、国際理解教育を推進することで、世界で活躍できる人材を育成する。

- ① スミスヒルハイスクール及びウヌーナハイスクールとの姉妹校連携（海外語学研修）を充実させる。
- ② P A S C H のパートナー校としての国際交流を充実させ、ドイツへの短期留學生徒派遣事業、PASCH キャンプへ派遣する。
- ③ 語学検定の合格、全国スピーチコンテストの入賞を目指す。

イ 「信州北園プロジェクト」によるキャリア教育・環境教育、探究活動を充実させる。

- ① 関係機関と連携し、生徒の探究心を高める教育活動を実施する。
- ② 森林探究実習により、タフな人間力を育成する。

(8) 学校経営・組織体制

ア 進学指導推進校としての組織的な学校運営を推進し、協働体制を確立する。

- ① 学校評価アンケートを活用して課題を明らかにし、学校改革に向けた目標の共有化を図り、対応策の検討を分掌・学年で行う。
- ② これまでに蓄積された多様なデータや、アンケートの結果等を、適宜適切にフィードバックし、成果の検証や課題の検討を学校全体で進めていく。
- ③ 企画調整会議を核にして、学年会・分掌部会との情報の確実な相互伝達と共有化により、組織的な校務運営を推進する。
- ④ 教科会を充実させるとともに、教科主任会を適宜実施し、教科を横断した学習指導に関する情報交換や連携を促進する。
- ⑤ 創立百周年を見据えて、関係団体とも連携し、周年行事への準備を開始促進する。

イ 働き方改革を推進する。

- ① 在校時間を適切に把握するとともに、定時退庁の促進や年次有給休暇等の取得推進など、教員の意識改革を図る。
- ② 校務サーバへのデータの蓄積や電子起案の徹底、校務サーバ内の掲示板及び T A I M S メールを用いた連絡や周知事項の徹底、定期考査採点分析システム等 I C T の活用等により校務を効率よく遂行することで、教職員のライフ・ワーク・バランスの推進を図る。
- ③ 時間設定の工夫、特に終了時刻を予め定めることで諸会議の簡素化を図る。
- ④ 経営企画室との連携による服従管理により、週休日・休日の振替を確実にを行い、夏季期間等、定時退庁ウィークを年数回設け、教職員の在校時間を縮減する。
- ⑤ 学校閉庁日の徹底や休暇取得の呼びかけにより、教職員の月 1. 5 日以上年次有給休暇取得を促進する。

ウ 教職員の資質・能力を向上させ、進学指導推進校として教育活動を充実させる。

- ① 担当者を明確にした、組織的な O J T を実施することにより、職務遂行能力を向上させる。

- ② 指導教諭を活用し、若手・中堅教員を対象に、研究授業と研究協議を行うとともに、相互授業参観等を通して、学力向上や学習時間の増加に繋がる授業の工夫等、教員の指導力向上を図る。
- ③ 「体罰根絶に向けた総合的な対策」に基づき、職員会議等で体罰禁止について繰り返し指導するとともに、日常的に未然防止に取り組む。
- ④ 服務事故防止月間に服務事故防止研修を実施する。情報漏えい事故0を目指し、情報管理・情報セキュリティについての研修を行う。

エ 経営企画室の経営参画を推進し、業務を円滑に遂行する。

- ① 経営企画室事務処理方針に基づき、経営企画室の経営参画を進める。
- ② 自律経営推進予算の計画的な事務執行を進める。
- ③ 授業料徴収事務を適切に実施する。就学支援金の適正かつ迅速な事務処理を行う。
- ④ 経営企画室職員と教育職員との密な連絡などの連携により、業務を確実に行うようにする。
- ⑤ 中長期的見通しに立って施設・備品・設備の更新を行うとともに、施設・設備の不具合については迅速に対応できるようにする。

2 重点目標と数値目標 [前々年度数値→前年度数値]

(1) 生徒の学力を向上させる。

- ア 学年+1 時間の自主学習時間を確保している生徒の割合 50% [41.0%→32.7%]
- イ 大学入学共通テスト全国平均 上回り率 教科平均 1.18 [1.13→1.15]
- ウ 実用英語技能検定の3年次合格者 2級以上 160人 [138名→159名]、準1級以上 20人 [16名→20名]
- エ 長期休業期間中の講習・補習開講数 100講座以上 [87講座→107講座]

(2) 進学指導推進校としての進学実績を向上させる。

- ア 国公立大学現役合格者 60名 [52名→55名]
- イ 大学入学共通テスト出願率 95% [98.1%→97.4%]、5(6)教科7科目受験率 45% [40.8%→34.6%]

(3) 生徒の基本的な生活習慣を確立させる。

- ア 遅刻者数各クラス1日平均 1人以内 [2.2人→1.8人]
- イ 部活動加入率 100% [105%→105%]

(4) 募集対策を充実させる。

- ア 学校説明会・学校見学会来場者数 5000人 [4500人→4149人]
- イ 入学者選抜【推薦に基づく選抜】応募倍率 3.60倍 [3.32倍→2.31倍]
- ウ 入学者選抜【学力検査に基づく選抜】応募倍率 1.80倍 [1.80倍→1.81倍]

(5) 学校評価アンケートにおける教育活動への満足度を向上させる。

- ア 満足できる授業 80% [生徒 74.3%→77.8%、保護者 73.6%→75.6%]
- イ 第一志望実現を支援する進路指導 80% [生徒 84.8%→85.8%]
- ウ 生徒と向き合う生活指導 80% [生徒 84.4%→72.8%]
- エ 教育相談の整備、校内美化の取組 80% [生徒 70.8%→76.5%、80.4%→82.1%]
- オ 学校行事の取組、部活動満足度 80%以上 [生徒 93.6%→94.1%、86.8%→86.1%]
- カ ホームページによる適切な情報発信 80% [生徒 69.0%→71.4%]
- キ 国際理解教育の充実度 80% [生徒 78.7%→90.6%]
- ク 「信州北園プロジェクト」による人間力育成 80% [生徒 57.2%→76.3%]